

石内支え合いネット（佐伯区石内小学校区）

【構成団体】 地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、
地区連合町内会、まごころ弁当、ボランティアバンク

地区の概況

石内地区は、西風新都の南部に位置し、幹線道路である草津沼田線や石内バイパスが通り、近くには山陽自動車道五日市ＩＣが立地するなど、交通利便性を兼ね備えた地区です。古くからの農村部（旧石内）と新しい住宅団地（石内南）とで構成されています。田園風景が多く残る旧石内地区も近年、石内バイパス沿いに自動車販売店が多く進出し、スーパーやホームセンターが開店するなど市街化が進んでいます。

石内支え合いネットについて

石内支え合いネットは、旧石内地区の一人暮らしの高齢者で少し気掛かりな方の見守り態勢を強化するため、令和元年10月から本格的に取組を開始しました。石内支え合いネットでは、おおむね70歳以上で見守りを希望される方を対象に、月に1回程度顔を合わせてもらうなど、緩やかな見守りを行っています。

見守り活動は町内会長や地域の福祉委員などが担っており、毎月、活動内容を「見守りカード」で報告しています。過去には、見守り協力員の方がお好み焼きを届けに見守り登録者の自宅を訪ねた際に、本人が庭で倒れて動けなくなっているところを発見し、危ういところで事なきを得たこともありました。

運営委員会は令和3年6月に発足し、地区社会福祉協議会の会長及び事務局長、民生委員・児童委員、ボランティア石内まごころ会、地域包括支援センターが3ヶ月に1回集まって開催しています。見守り登録者に関する報告では、見守り登録者の普段の生活の様子や地域包括支援センターによる本人との面談の内容、本人の介護認定の状況などそれぞれが把握できていない部分も含めて、細やかな情報共有ができています。

◆ プロフィール ◆

令和6年9月末現在

佐伯区石内小学校区

●総人口	3,705人	●準備委員会 立ち上げ時期	平成31年1月
●高齢者人口（※）	833人	●登録開始時期	令和元年10月
●高齢化率	22.5%	●見守り登録者	17人
●世帯数	1,509世帯	●見守り協力員	16人

（※）65歳以上

工夫していること

石内地区では、一人暮らしの高齢者等を対象に、毎月4回、ボランティア石内まごころ会の会員が石内公民館で調理した「まごころ弁当」（1食250円）をお届けし、利用者への声掛けや安否確認を行っています。利用者については、民生委員・児童委員や地域包括支援センターからの申出を受けて、協議を行った上で地区社会福祉協議会が決定しています。過去には、弁当をお届けする際に声掛けをしたものの返事がなかったため、様子を伺ったところ室内で動けなくなっている利用者を発見し、救急車で病院に搬送した結果、大事に至らなかったケースもありました。

まごころ弁当の利用者の中には、「お弁当が美味しかったから、作り方を教えてほしい。」とおっしゃられる方や、配達の際に話をするのを楽しみにしている方がおられ、そうしたことがまごころ会のみなさんの喜びにもつながっているそうです。

その一方で、近年の物価高騰に伴うお弁当代の見直しやまごころ会の後継会員の発掘などの課題があり、どのように対応するかを検討する必要性を感じているところです。



「まごころ弁当」の配達を通じて、利用者への声掛けや安否確認を行っています。

活動の成果・今後の展開

石内地区では、石内支えあいネットの立ち上げ以前から、一人暮らしの高齢者で少し気掛かりな方への見守りを行っていましたが、立ち上げ後に「これまでと同じ形ではいけない。情報共有の場が必要。」との問題意識から見守りカードを導入するとともに、近況報告も兼ねた情報共有の場として運営委員会を発足しました。

運営委員会では、「息子さんが最近転勤で離れたところに引っ越すこととなり、本人は気を落としているようだ。」「先日御主人が亡くなったそうで、声を掛けるタイミングをどうしようか悩んでいる。」といった、単なる見守り活動の報告ではなく、見守り登録者を気に掛けた上での情報共有がされています。今後も、見守り登録者に監視されていると感じさせることのない緩やかな見守りを通して、地域での支え合い活動を継続していきます。

活動をしている人のコメント

一人暮らしの高齢者が住み慣れたこの地で、安心して暮らせる、人と人とのつながりや触れ合いを大切にしたいと考えています。



地域包括支援センターのコメント

見守り登録者の方が、ゆるやかに地域とつながり、いざ困った時には相談できるという“安心感”をもって過ごしていただけるよう、今後とも地域の皆さまと共に活動を進めてまいります。

